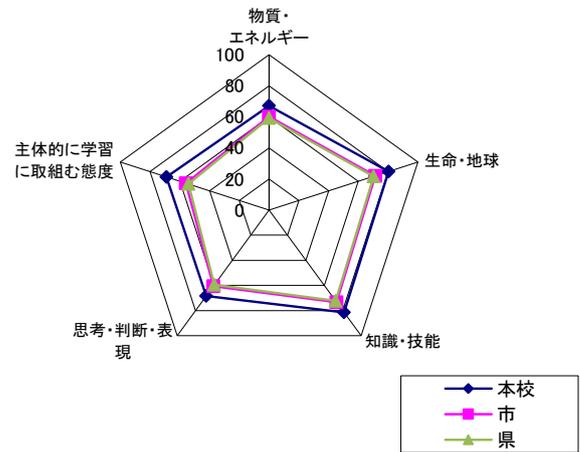


# 宇都宮市立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.1	60.2	59.2
	生命・地球	80.3	71.3	70.3
観点	知識・技能	81.5	73.4	72.3
	思考・判断・表現	68.5	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	69.0	55.9	54.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市・県の平均を上回っている。 ○「電気の通り道」については、市・県より12ポイント高い。また、電気を通す物と通さない物についての理解は、100%だった。 ●「じしゃくのせいしつ」については、市・県より1ポイントほど低く、磁石につく物とつかない物を理解していることを問う問題では、正答率が45%と、県より9ポイント低かった。</p>	<p>・物質・エネルギーにおいて、全体的に正答率が高いということは、普段の実験の目的をきちんと把握し、正確に実験を行い、結果を理解している結果だと思われる。反面、電気を通す物と磁石につく物の理解度に大きな差が見られる一因として、実験結果を混同していることが考えられる。今後は、実験目的と結果を比較し、既習事項から学びを広げたり深めたりする活動を行うなど、工夫して知識を定着させていくようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市・県の平均を大きく上回っている。 ○「植物の育ち方」についての正答率は、91%以上と高い傾向にある。また、ホウセンカとヒマワリの子葉や根の様子については、正答率が100%である。 ●「こん虫の育ち方」についての正答率は、市・県の平均より2ポイントほど高いが、モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する設問については、正答率が60%である。 ●「太陽と地面の様子」についての正答率は、市・県の平均より9ポイントほど高いが、正午にできる影の位置を理解できているのは、40%ほどであった。</p>	<p>・目的をもって植物や生き物を育てたり、昆虫の体を細かく観察したり作ったりするなどして、知識を体験的に身に付けられるようにする。また、ICT機器を活用し、成長の様子を記録して連続で観察するなど目の前の生物が成長する様子をより身近に感じられるようにする。 ・話し合う活動や文章で簡単にまとめる活動を通して、事実の背景にある理由について考えられるようにする。 ・観察場所を数か所設け、その結果を比較検討することから普遍的な現象についての知識を定着させる。</p>